

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成19年12月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2172600765
法人名	株式会社 エステートホーム
事業所名	グループホーム サロン・ド・フレール大野
所在地 (電話番号)	〒501-0513 岐阜県揖斐郡大野町大野742-1 (電話) 0585-36-0585
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1
訪問調査日	平成19年12月12日

## 【情報提供票より】(19年11月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 2 月 25 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	10 人	常勤	5 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 6.6 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,500 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	16 名	男性	4 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.8 歳	最低	74 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	おおのクリニック あおば歯科
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

サロン・ド・フレール大野は静かな町中にあり、広い敷地に近代的なデザインが目目を引く建物である。陽当たりがよく天井も高く、開放感があり温かみのある共用空間があり、居室・トイレ・浴室・収納等あらゆる所に自立に向けた手すりやプライバシーの配慮など暮らしやすい工夫がされている。全職員はケア理念「笑顔の花を咲かせる」のもと、認知の低下・転倒防止を心がけ、施設理念「いつまでも「その人らしく」を大切にやさしく、ゆったりと寄り添う介護がされている。家族や地域との交流もあり、利用者の穏やかな笑顔が見られた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員の悩みを聞き取る場所や機会の確保については共用空間の一部分で利用者の状況確保できる場所にて見守りながら時間的に余裕が出来る午前と午後の15分~20分を職員の話し合いの場としている。また個人的な悩みや介護に関することは事務所で管理者が個別の対応をして、改善の取り組みがされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価において職員全員で話し合い、今一度自分たちの介護に対する心構えを思い起こし、公開することにより安心してもらえるようにしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>利用者の困難事例による介護方法や地域との連携・交流の持ち方について提供又情報を得て、意見・要望等を聞きサービスの改善、資質向上に努めている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>相談窓口、担当者の設置が重要書類に明記されている。玄関には苦情箱も設置され外部・管理者の対応もされている。家族ともコミュニケーションがとれて来訪時に状況の説明、希望や意見を聞き運営に反映されている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日常生活においては自治会に入り地域の行事には出来る限り参加し、敬老会にも招待されている。グループホームのことも広報にのせてもらい、区長の協力も得られ夏祭りの行事は利用者・家族・地域の方も多く参加していただき楽しい一日となった。今後益々地域との交流を深めていくことを期待する。</p>
重点項目④	

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の見直しをして「木もれびのように」から、より分かりやすく「笑顔の花を咲かせる」「いつまでも、その人らしくあるために」という理念を掲げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミニカンファレンスでケアの評価をして理念に振り返っている。これがユニット会議へつながるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	以前は地域の催しや公民館でのカラオケにも参加していたが、現在は地域の祭りの際には神輿がホームに立ち寄り車椅子で戸外に出る事が限られていた人も地域の人との交流ができるようになった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を職員も理解したうえで、ユニット会議、ミニカンファレンスを活用し課題への取り組みにも参加している。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の会議の内、3回は近隣のホーム5施設で持ち回り開催で進めている。民生委員、市町村、事業所、家族、区長その他、他のホームからも参加して行われている。利用者状況、地域交流内容、身体拘束廃止について、外部評価についてなど広い範囲の話し合いをしている。また会議の内容を公報にも掲載して地域住民の理解を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回の地域ケア会議に参加して意見交換、情報交換を行っている。市町村の福祉課に相談してグループホームのポスター掲載について相談したこともある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族交流会、サロンド新聞(施設新聞)、請求書を月一回配布時に利用者の状況を報告している。その他必要に応じて電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問したときを機会に様々な意見をもらうようにしている。第三者苦情窓口も伝えられている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は日常的にユニット間を行き来して利用者と接していて馴染みになっておりユニット担当が替わっても混乱することなく過ごしている。異動による利用者のダメージを考慮して法人の系列グループホーム間の異動はしていない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	基本的にはユニットチーフによる現場での教育により職員を育てている。その他法人内の研修、法人外の研修に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	池田町のグループホーム5ヶ所とは運営推進会議、地域ケア会議の他、1年に1回それぞれのホームを巡回して交流している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずサービス開始の希望者には1,2階の見学を進め、利用者との交流をしてもらいホームの雰囲気に馴染んでもらうようにしている。また、利用後も家とホームを行き来してもらい徐々に馴染むようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と同じことをしても「お願いします」という声かけをしたり、畑の耕し方や肥料のやり方など職員が分からないことは教えてもらう姿勢を心がけている。また洗濯物の取り込みなどできることは依頼している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のコミュニケーションのなかで利用者にあずねて思いを把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット会議において職員が一人一人の利用者の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しがなされている。利用者に変化があったら介護計画の見直しが必要と判断されたときは必要に応じて医師やそのた必要な職種と相談して作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じ、通院介助をおこなっている。又希望に応じ針・マッサージ師の往診も対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医となっており、協力医の訪問診療が月2回あり必要時の対応もされている。職員による通院介助や家族支援による受診もあり、受診結果の情報の共有が出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に医療行為についての往診又は緊急時の医療・重度化による指針に係わる説明と同意書が作成され、重度化した状態においては本人・家族・かかりつけ医・職員で日々の話し合いがもたれ方針の共有が図られる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格を尊重しプライバシーに配慮した言葉かけやトイレ・入浴・部屋の掃除等において特に配慮され、スタッフ会議においても話し合われている。個人情報における記録等の扱いにも配慮がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが利用者一人ひとりの思いを尊重し、希望にそった生活が出来るよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好を聞きながら旬の材料を用い買い物、調理(下準備)や後片づけなど一緒におこない、職員は利用者と共に食事をとり楽しく会話しながらさりげなく介助をおこなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調がよければ時間帯・入浴日も希望に合わせて出来る限り毎日対応している。入浴できないときは「明日は入ろうね」と声かけをしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴を理解し、得意なこと らっきょう漬け・梅干し漬け・やさい作りなどを職員も教わりながら一緒におこない、楽しみながら張りのある生活が送れるよう支援している		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候・天気・時間帯を見計らいながら利用者の体調を見ながら希望に添って散歩・買い物に出かけている。車椅子の方は庭に出たりしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけて無く、ドアには外出するとチャイムが鳴り誰が出かけたか職員が確認できるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練・避難訓練をおこなっている。設備点検をおこない非常用食料・備品等の準備もおこなっている。しかし、まだ自治会の防災訓練は実施されていなく、具体的な取り組みに至っていない。	○	避難に関するマニュアルを作成し、緊急時の対応がスムーズに行えるようにし、地域の方にも協力が得られるようさらなる取り組をされることを希望する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分の摂取量は生活記録に記載されている。栄養のバランスに配慮し、水分補給も午前午後に分けて計画され好きな飲み物を準備している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所・食堂・居間は1つの広いスペースになっており、天井も高くゆったりとしてくつろげる空間となっている。陽当たりがよく開放感もあり家庭的で壁飾りや花が生けがあり季節感も感じられホーム全体が清潔で生活しやすい工夫がされている。居間の手前の共有スペースには仏壇が置かれ、そこで手を合わせるのが日課の利用者も見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力が大きく、自宅で使い慣れた家具などを持ち込まれその人らしく居心地のよい居室となっている。		